

Hataraku(work)
 Kurasu(live)
 Sasaeru(support)
 That is to say
 Kobushi Network

We are social workers!

グッとくるよ

こぶしだより



特集

所長座談会
 「事業計画実現に向けて」

上三川ふれあいの家ひまわり
 Atelier de Pain
Chou chou
 アトリエ・ド・パン シュシュ

5月22日オープンしました!!



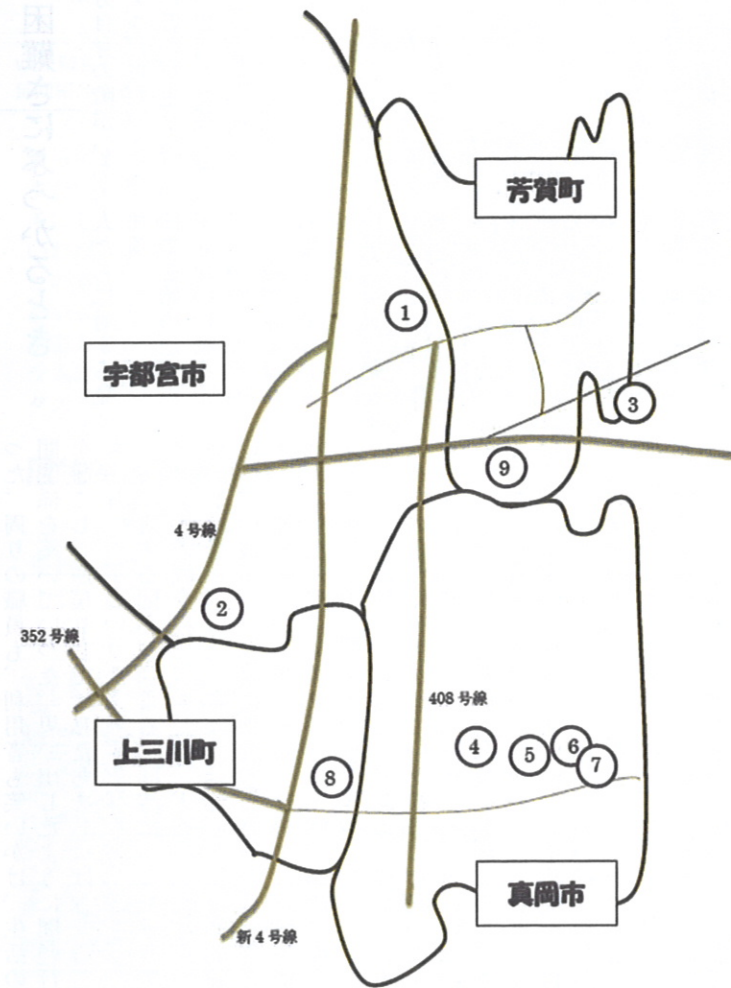
上三川ふれあいの家ひまわりパン事業「アトリエ・ド・パン シュシュ」皆さまに支えられて無事オープンすることができました。これから日々努力して、みんなのお気に入りの場所を目指します。

新企画盛りだくさん

- ・一般就労者の今
- ・ギャラリーこぶし
- ・きみはぼくのトモダチ
- ・障がい者をめぐる社会情勢

NO. 352

困ったを 良かったにかえる お手伝い
 社会福祉法人こぶしの会 **事業所一覧**



- 宇都宮市柳田町 1401
こぶしの会法人本部
 028-613-3707 (F) 028-666-6128
 028-666-0418 (居住生活支援事業部)
第2 けやき作業所
 028-680-5937 (F) 028-680-5938
- 宇都宮市茂原町 837-1
こぶし作業所
 028-653-1020 (F) 028-688-1121
障がい者生活支援センターこぶし
 028-613-5703
- 芳賀郡芳賀町祖母井 2244
けやき作業所
 028-687-1040 (F) 028-677-5789
地域活動支援センター「ほっとCHA」
 090-7820-9165
- 真岡市亀山 1043-23
セルフ・みらい
 0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- 真岡市荒町 3-9-5
県東ライフサポートセンター真岡
 0285-83-2567 (F) 0285-85-8055
お菓子工房 ピケ
 0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- 真岡市荒町 111-1
県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」
 0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- 真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内
芳賀地区障害児者相談支援センター
 0285-80-7765 (F) 0285-80-7765
- 河内郡上三川町大字上三川 5082-15
上三川ふれあいの家ひまわり
 0285-38-6821 (F) 0285-38-6841
上三川町障がい児・者生活相談支援センター
 0285-38-6854
アトリエ・ド・パン シュシュ
 0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2
おらがそば茶屋
 028-680-5091 (F) 028-680-5092

【企画】社会福祉法人こぶしの会
 【編集】こぶしだより編集委員会

【責任者】藤田勝春
 【編集責任者】高橋温美
 【住所】〒331-0902 宇都宮市柳田町一四〇一番地

【発行所】〒157-0073

東京都世田谷区砧六―二六―二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価五〇円

～編集後記～

○…この前初めて鳥刺しを食べました。クセがなく、はまってしまいました。新鮮でないと思われたい、お肉屋さんでないと売っていないそうです。にんにく醤油で食べるのがおすすめです。(篠崎)
 ○…はじめての取材だったので、戸惑いも多く、関係諸氏・方々にご迷惑をおかけしましたが、無事、脱稿までこぎつけました。今回はもっとスムーズを心がけたいと思います。今後ともあたたかく見守っていただけたら幸いです。よろしくどうぞ。(高野)
 ○…5月21日金環日食を見ました。1週間前から日食対応のメガネを購入し準備、いざ当日…栃木県は天気にも恵まれ、綺麗に金環を見ることができました。もう一度見たいと思いましたが、次回金環日食は北海道…行こうかなと考えています。(小野)

○…先日の海援隊コンサート、微力ながらお手伝いさせていただきました。招待した私の家族も喜んでくれて、本当によかった！しかし武田鉄矢氏が、何をやっても話しても金八先生にしか見えぬ私は…もういい歳なのだろうか？(松本)
 ○…携帯電話が故障中で通話ができせん。でも、電話がかかってくることもないので、あまり不自由していません(笑)。そんな私にオスメプランを教えてください。(菊地)
 ○…生まれて初めて犬(Wコーギー)を飼い始めました。犬は無邪気に毎日いろんなことをしてかしてくれます(笑)。子育てというものをしていないので、悪戦苦闘・試行錯誤の日々です。世の中のお母さん(お父さん)は大変なんだなあとということが少しわかったような気がします。ちょうど母の日・父の日シーズンです。両親に感謝!!(星宮)

平成24年度 こぶしの会事業計画報告第二弾

所長座談会

—6つの作業所とくらしの場—



文章だけで報告される今までのわかりにくい

事業計画なんて読みませんよ、って人必読

具体的かつわかりやすく所長自らに語っていただきました。

座談会開始

事業計画を具体的にどう進めていくか？

ポイント

- ① 就労会計黒字化
- ② 地域とのかかわりと つながり
- ③ 職員集団づくり



就労支援事業収支黒字化実現！ 作って売って利益を上げる。

先灘：ただ「もの」を作るのではなく、「いいもの」を作る。どうにかしたい、豊かにしたいという気持ち。誰のために仕事をしているの？きちんと支援計画を立てて支援できているのか？職員の自己満足のための支援になっていないか。

小幡：「商品売る」ということは、自分たちが儲けるためなのでしょか。お客さんの満足のためにならないといけない。そのためには所長の仕事は、目配り、気配り、心配りができる職員を育てること。経験と社会常識を身につけ、まとまりのある職員集団を形成すること。



職員集団づくり。 どう考え、どう取り組む？

先灘：目配り、気配り。まずはそこから。藤田：気づかないとわからない。所長会議は、「気づく」力をつけていく場。わからないことだらけなのだから、様々な成功、失敗を経験して多くの「気づき」を共有する。そして、事業所の会議でしっかりとその「気づき」を伝える。それがなれ合いの仲良しグループではなく、お互いに高めあえる、学んで気づける職員集団をつくっていく。

先灘：利用者から合格点がもらえるという視点からの支援を目指す集団作り。利用者の期待以上の支援ができたらいい。小幡：そう、利用者からの苦情も大切。ちゃんと個別支援計画を立てて支援してくれなかったとか、利用者職員がどう見られているかって重要だよ。



お菓子工房ピケのクッキーは、一つ一つが手成型でとても愛情がこもっています。



地域とのかかわりの持ち方、地域とつながりについて

牧岡：社会的なルールを身につけることはすごく重要。よく言う「5S」運動を所長自ら率先垂範する。そして、人を慮り、職員個人がそれぞれ持っているいいものを引き出すのが所長の役割かな。
(編) 就労支援事業収支の黒字化、つまり健全経営を目指す考えが、成熟した職員集団を作り、より良い支援形成が望めるということですね。

小幡：やっぱり「人」。関係機関との連携などでも顔と顔を合わせることで大切。外にだけ出ているのではなく、地域の協力者に支援を継続してもらうために、何を持って地域とつながるかってところが大事なんだよ。

先灘：関係をただ広げればいいというわけではない。地域の障がい福祉の役割を担っている私たちの仕事を助けていただけるようなつながりをつくっていききたい。

小幡：事業所として地域に何が返せるか、地域からもらうばかりでなく、事業所が地域に貢献することも必要。

(編) 地域によっては文化の違いもあるかと思いますが、地域との接点を

目配り、気配り、心配り 人を知り、人を育てることで目標を現実

青木：地域への開放事業。施設開放をしてみるとか。

先灘：地域のお祭りに参加するのは、関係をつくるには良い機会。

牧岡：ひまわりも地域に開かれた施設を目指す。パン屋が地域とつながりの面も含まれ、それが地域にとって有効な社会資源になればいい。

増田：いろいろな地域理解を得るのは大変。時間と労力を惜しんではいけません。近隣に住む方との対話の場を設けたりと取り組んでいます。

小幡：職員が普段からどれだけ地域の人とつながっているかがポイント。特別なことじゃなくて、日常のかかわりを作ること。職員が施設の顔になる。不安や誤解が地域に生まれない努力が必要だよ。

平成二十四年度事業計画概要

&

所長とついでに意気込み

□黒字化に成功した生産活動の純益アップ
□スタッフ同士の助け合い、協力し合い、高め合いで、より高い峰を目指す職員集団づくり
(意気込み)
・茂原に移転して三年目を迎えました。地域に根を張った事業所づくりを行いながら、「こぶしカンパニー」にこころ(パンショップ)を中心とした生産活動の収益アップを、販路拡大でめざします。

～地域に根を張った事業所づくり～



けやき作業所 先灘 和文



こぶし作業所 増田俊雄

～Haga Town de No.1～

- 特にモニタリングに力を入れ、支援目標の達成を確認していく
- 高倫理観、目的意識を持った集団づくり (意気込み)
- ・当たり前のことを着実に前進していきます。
- ・職員のチームワークを大切に、「パンを作って、売る」ということの中で、それぞれが自分の役割をもち、「自分はここをがんばっている」と言えるチームをめざします。

～基本に立ち返る～

- 震災前の姿に戻れる努力と新しいものを生み出す努力をする
- 目配り(人間性)、気配り(社会性)、心配り(専門性)ができる支援のプロをめざします。
- (意気込み)
- ・「動的平衡」＝利用者も職員も一人では存在しえず、各々の関係性でつくりだされています。連動性のある集団ができれば補い合え、気づいた人から発信し、一人では困難でもみんなですることができるこぶしの会にしましょう。
- ・第2けやきは「一般就労につながる場所」、おらがそば茶屋は、「地域とつながる窓口」になります。



第2けやき 小幡 恭弘



上三川ひまわり 牧岡 健

□今までのつながりを大切に、これからを育む
□工賃アップ・ていねいなADL支援・ホッとして地域活動支援センター・学童保育で発達支援・頼れる相談支援・利用者の自治会づくり支援
(意気込み)
・大切なのは情緒。まず人を先にするとう心をも自分も、職員も、また、集団としても育てていきたい。そして、ひまわりがみんなのお気に入りの場所になれるよう努力を惜しまない。
五月二十二日、みんなのお気に入りになるパン屋をめざした「アトリエドパン シュシュ」がオープンしました。
～ニーズをつかみ、人とつながる開かれた施設をめざす～

5 一般就労者の現在

チャレンジセンター発

一般就労者の現在



真剣に作業に取り組む押久保さん。
本日の作業は、紙袋の不良のチェックと、補修です。

私は今、ヘイコーパック株式会社という所で働いています。ここは、主に紙袋や包装紙などを作っていて、仕事だけでなく、ウォーキング大会や夏祭りなどの催しなどもある、とても楽しい会社です。

こぶしの会の事業所から、一般就労した仲間たちを紹介いたします。一回目は第二けやき作業所から、芳賀町にあるヘイコーパック株式会社（鈴木健夫代表取締役社長）に就職した、押久保由佳さんです。

これからも、一緒に働く会社の仲間たちとの絆を忘れず、少しでも本場の『仕事人』に近づけるよう、日々邁進していきたいです。努力すること忘れず、人生を歩んでいこうと思います。

「挨拶」「礼儀」という大事なことを学び、成長している押久保さん。きつと立派な『仕事人』になれると思います。

取材・編集 松本祐一

こぶしの会から就労していった仲間たちを、毎号紹介していきます。楽しみに！

ギャラリー こぶし 仲間の作品紹介



人向の仕事
笑って勤める人もいる
泣いて勤める人もいる
たえてふるえて
勤める人もいる
俺とすれば一番いいのは
縁の下のチカラもち
俺はそれが好き、
武

作品募集!!

こぶしの会を利用しての皆様が日頃取り組んでいることや、趣味、創作品などを募集します。採用された方には、取材をさせていただきます。このコーナーで取り上げさせていただきます。お待ちしております。

●問い合わせ先
関東ライフサポートセンター 真岡 松本祐一
(松本が三人いるので必ずゆういち宛にお願いたします。)

TEL 〇二八五・八三・二五六七



第2けやき作業所では、カインズホーム宇都宮テクノ店様で毎週火・木曜日 11~13時、けやき作業所のここにこパンをはじめとした手作り商品を販売しております。また、ゆいの杜ガーデンセンター様（宇都宮市刈沼町）でも毎週火曜日に販売しております。詳しくは第2けやき作業所までお問い合わせください。

藤田・グループホームでは、まさに地域で生活をしているので普段のあいさつを大切にしています。牧岡・みんな人と人とのつながり。その「ひと」をどう育てるかが所長に求められている。小幡・福祉分野の多様化が進んでいるが、福祉の世界の「常識」を社会に押しつけようとするのはダメ。福祉を押し付けることになる。常に社会から見られているし、社会から求められているものもある。福祉にも社会性が必要。社会のルールに順応させる一般常識を身につけさせることも必要。郷に入っては郷に従えというように。

青木・福祉業界は閉鎖的。最低限のルールを知っていて初めて他の業界と同じ土俵に立てる。(まとめ) いまのこぶしの会の職員一人ひとりに、福祉の支援者として、ビジネスを展開しているものとして、プロの仕事を実践するために「目配り、気配り、心配り」が大切なのだと感じました。社会人として、こぶしの会の職員として、中間管理職としての経験年数の少ない職員が多い組織の中で、大切なことを意識しながら経験を積み重ね、プライベートにおいても、まずは自分の自己と向き合い、人間性を磨きあげていくことが着実に前に進む一歩につながっていくでしょう。

取材・こぶしだより編集委員会 菊地&星宮

~七転び八起き~

- 利用者支援をいねいに行う
- 地道な販売活動で工賃アップ
- 利用者も職員も楽しく働いて、毎日来たくなる作業所作り (意気込み)
- ・集団としてはチームワークが鍵で、利用者支援をいねいに行うことが第一。毎日利用者が来たいと思える作業所になる。利用者も職員も楽しく働ける作業所をめざします。
- ・物事をポジティブに捉え、支援と全体のバランスを考えながら、着実に実績を積み上げていきます。



セルブ・みらい 青木 利和

~ホッとした生活を支える 職員の連携~

- 職員間の連携で支援力アップ
- 安心して暮らせる地域づくり (意気込み)
- ・とにかく笑顔。利用者も職員も笑顔で楽しく働く。疲れていても仕事を達成感とかを大事にする。
- ・地域での安心できる生活をどうつくっていくかがポイントで、支援に一番必要な連携と、基本的な障がい者の理解から専門性を身につけた職員になれるよう学ぶことも必要だと思っています。



県東真岡 鈴木 美輝



けやきハイツ 藤田 みどり

□日中活動を通じて生活リズムを作る
□一般就労を実現
□工賃アップのための作業確保 (意気込み)
・作業所としては、信頼される職員集団をつくる。個人的には、辞めないでこの仕事をしっかりとやる。
利用者にとっての「作業所」の意味を良く考えた上で働くことが大切だと思います。
・工賃アップのためにも、パン等の販路を拡大し、収益アップをめざします。

~さらに利用者として しっかり向き合う支援~

昨年度に引き続き、たまみシュランです。
今回はこぶしの会でお菓子を作っている「セルフ・みらい」の「お菓子工房ピケ」に行ってきました。店舗は構えていませんが、食べてくれたみんなが笑顔になるようなおいしいお菓子を製造・販売しています。取材時は、真岡女子高等学校とのコラボレーションクッキーの製造真っ最中でした。では、さっそくお菓子作りの現場をのぞいてみましょう！

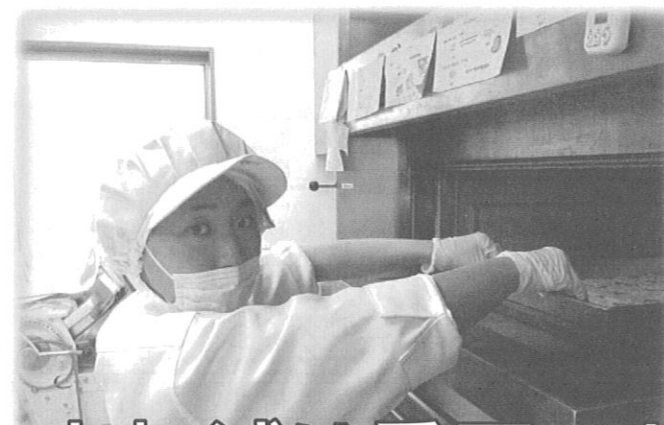
こぶしんぽっ
パツサイ!!!

こぶしの会を食べ歩き!



たまみシュラン

「お菓子工房 ピケ」で お菓子ぜんまいしてきたよ～



火加減は重要です

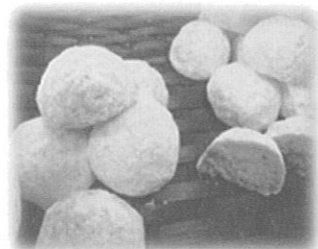


包装中



シールを貼って

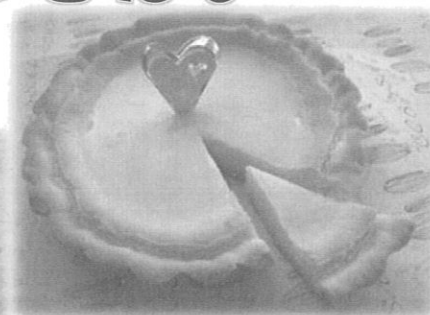
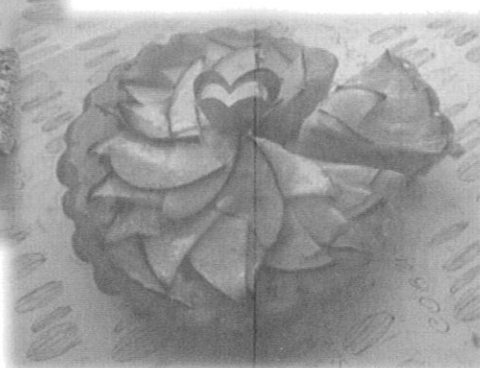
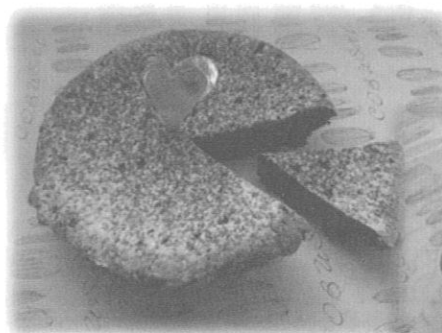
力を合わせてがんばってま～す



ブルドネージュも
大人気!!
10個入り 150円



栃木の名産、大麦を使用した
大麦マドレーヌ。おいしいよ
10個入り、550円



左から
・くらしっくショコラ 250円
・あっぷるタルト 350円
・ちーずタルト 350円

訪問した時はちょうど真岡女子高等学校のオリジナルクッキーを作っているところでした。けやき作業所で作っていたクッキーを、ピケが作るようになったそうです。また、ピケでは、くらしっくショコラ、ちーずタルト、あっぷるタルト、マドレーヌ、ブルドネージュを作り販売しています。なかでも、あっぷるタルトとマドレーヌBOX（プレーン&大麦）がおすすめになっています。栃木県は大麦の生産量が日本一!! 大麦を使った、お菓子は珈琲に似た味になります。ぜひ一度、ご賞味あれ。

お菓子工房ピケって?

- ・何人で作っているの
利用者5名職員2名、計7名で作っています。
- ・いつオープンしたの?
平成22年12月オープンです。まだ、オープンして1年6か月です。
- ・ピケのお菓子はどこで買えるの?
ピケに電話していただくか移動販売もしています。おらがそば茶屋、けやき作業所、上三川ふれあいの家ひまわりパン屋さんにピケの商品があります。
- ・ピケの目標は?
地域の方に知ってもらうことです。特産物の会議に出て、アピールしています。あと、15種類の商品を販売することです。
- ・ピケの特徴は?
ピケは焼き菓子の製造・販売をしています。保存期間が長く、おいしいお菓子を作るために頑張っています。

こぶしの会ギフト(クリスマス・バレンタイン)も大成功でした。今年度もよろしくお祈りします。

お菓子工房ピケ

真岡市荒町 3-9-5
県東ライフサポートセンター真岡
となり

TEL 0285-81-7091
Mail okasipike@kobusi.or.jp

担当: 上田

感想の部屋



同行は上三川ふれあいの家ひまわり地域活動支援センターを利用されている矢野真由美さんです。



取材同行者の感想と今日の採点です

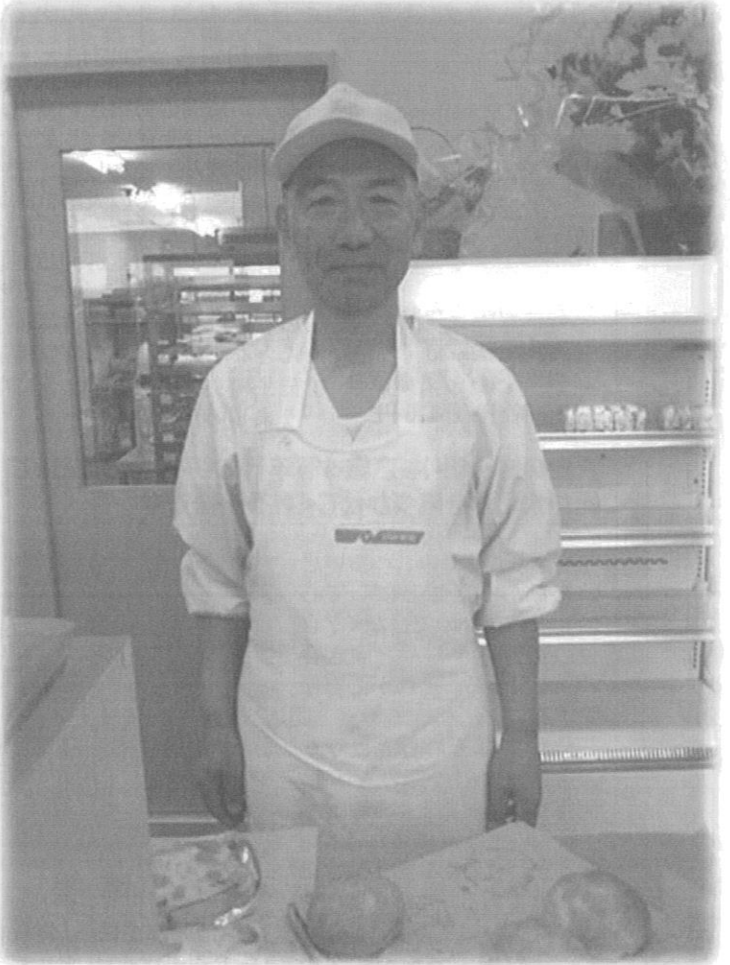
採点の部屋

星 ★★ 2つ

- ・良かったところ
 - ◎ お手頃価格
 - ◎ おいしくて見た目もかわいい
- ・改善してほしいところ
 - ◎ 店舗販売してほしい
 - ◎ 場所が分かりにくい



今回、新企画として始めさせていただいた「きみはぼくのトモダチ」を担当する、セルフ・みらい職員の小野です。どうぞよろしくお願ひ業班に関わってくださっている関係者の皆様をご紹介します。



地域のために、おいしくて美しいパンづくりを真剣に考え、続けていく努力を惜しまないことが大切



絶品!!
クロワッサン&バゲット



宮田義雄先生

宮田義雄先生略歴

- 昭和15年生まれ
- 昭和30年 15歳のときアートコーヒー(コーヒー屋さんの中にあるパン屋さん・東京都)で働き始める。
- 昭和39年 ホテルニューオータニ オープニングスタッフ
- 昭和43年 ホテルオークラ
- 昭和46年 ホテルパシフィック東京
- 昭和50年 ピーターパン(前橋)
- など数多くのパン店での経験をもとに、自身でも昭和52年、宇都宮市のさくら通りに「グランドール宮」をオープン。その後南宇都宮駅近く(新町)に移転。70歳で引退するまでの32年間まちの美味しいパン屋さんとして活躍。
- 2011年1月よりこぶしの会パン事業の講師として職員の指導にあたっていた。

「きみはぼくのトモダチ」を担当する、セルフ・みらい職員の小野です。どうぞよろしくお願ひ業班に関わってくださっている関係者の皆様をご紹介します。



こぶし作業所
けやき作業所

にこここパン屋さん

Atelier de Pain
Chou chou
アトリエ・ド・パン
シュシュ

今回はパンに五十年以上関わり、現在こぶしの会のパン指導を行なっ
てくださっている宮田義雄先生にお
話を伺いました。
「パンを作るのは簡単なことではな
いですよ」宮田先生は一番初めにこ
の言葉をおっしゃっていました。現
在こぶしの会では三つの事業所で製
パンしていますが、利用者・職員の
絶え間無い努力やパンへの愛情の賜
物により現在のパン事業の姿がある
のだと再認識することが出来ました
。また、宮田先生は「パンの魅力
は美味しさと見た目が美しいところ
です。パンは熟成の一番いい時を見
極める事が大切と考え今まで指導を
行なっています」と指導の注意点を
教えて頂きました。



指導風景(けやき作業所にて)

日本と外国でパンの種類が異なるよ
うに、日本国内でも地域によって需
要があるパンには違いがあります。
地域に根付いたパン屋を目指すため
には日々「考えること」が大切であ
ると学ぶことができました。

●自分の仕事に誇りを持ち、働いた作業が評価される事業所を目指して!

第一回目となる今回は、平成二十四年五月二十二日にオープンした「上三川ふれあいの家ひまわり」の「Atelier de pain Chouchou」アトリエ・ド・パン・シュシュ(以下シュシュ)の開店を支えてくださった方をご紹介します。こぶしの会としては三事業所目のパン事業、また、初の店舗販売中心のパン屋さんとしてオープンしたシュシュ。働く人、地域の人みんなのお気に入りの場所・パンを目指し毎日作業を頑張っている職員・利用者を支えていただいております。

きみはぼくのトモダチ

お気に入りの場所 お気に入りの人

社会モデルを地域文化に 文:高橋温美(こぶしの会常務理事)

第1回「障がいの重い彼は、私の恩師」

○現実の困難さにつづかる時

かつて自分自身の障がいがある人たちに對する見方は医療モデルだけだった気がする。知的障がい者の更生?施設で仕事を始めた青年期の前には、担当した彼の理解できない行動を眼の前で、(医学的な機能)障がいだけが唯一の原因であると思ひ込み、必至に専門書、専門家を尋ねた。担当した利用者の、自分の経験をはるかに超える行動障害に唖然としていたのである。今思うと、頭でっかちの自分には、「現実には足をしっかり踏みしめる」という、強烈ではあったが適切なカンフル剤となつたようだ。幸いにも多くの相談相手を得て、得るものは大きかった。言葉を持たない人たちが、周りをどのように認識し、私たちがどのようにコミュニケーションをとることができるのか。そして、私たちが一緒に生活や労働ができるのか。本当に幸いなことに、自分が学んだ実践は、「認識や身体発達のどのよう障がいが重くとも筋道は一緒だ」「問題行動こそ発達のエネルギ」と考える発達心理学に基礎を置くものだった。だから、普通の子どもたちがどのような成長の経過をたどるのか。そのためにはどのような大人(支援者)の働きかけがあり、人間として成長していく糧になるのかという保育・教育が大いに参考になったのである。

人間としての成長というところは大切なポイントで、子どもは自然と人間になりゆくのではないという。障がいが無くとも、人間の子どもといえど狼に育てられた人間は、狼として成長するという事実があるからだ。人間の生理的な知見や保育、教育の学習をつうじて、言葉が無く、問題行動のデパートのような恐怖さを感じるような利用者(私の第一番目の恩師ともいえるべき)への働きかけのアイデアを少しずつ見出していった。格闘の末、私たちは大笑いする間柄になつてい

つた。周りの職員も、利用者も笑いかけ、生活の人間関係を築いていった。思い出したように問題行動を起し、逆戻りしては私たちがしよげさせることも半月、一年というペースで少なくなつてきた。彼に對する関心が深まると同時に、今言うアセメントの幅を拡げてきた。二十歳に満たなかった彼の足跡をたどった。きっかけは、弱視で知的障がいの重い彼が、自転車に乗れることを知ったことである。彼の障がいの重さから、自分には理解不能な能力だったのだ。何故?月に一回、施設に面会に来るご両親との対話がその理解を助けた。

シンブルに解釈すればこうである。障がいの重い彼を猫のように可愛がっていた祖母の存在が大きかったのだ。当時は、一九七五年ごろ。重い障がいのある子どもたちは、義務教育制度を免除(拒否)された。二人ぼっちですごした。しかし、強い絆でつながれた人間関係の中で自転車に嬉々として乗れるような能力を培ってきた生活は祖母の死で終焉する。彼は、死の床にある祖母の布団を(散歩に)イグー。イグーと叫びながら外に引張り、慌てふためいた周りの人たちと強烈な綱引きをしたといふ。

介護者を失った彼は、内に強烈な人間的情熱を持ちながら、施設遍歴を繰り返す。その熱い思いを私たちに全身で表現してきたのだ。それこそ血みどろの表現である。

数年かけて祖母との関係性を担当職員を中心とした連帯で復活、さらに施設という小さな社会の中で新しい人間関係を広げてきた彼は、シタケ栽培の労働にも一々二時間従事するほどになって来た。労働と仲間たちの信頼関係で湧き出てくる彼の笑顔はいつも私の中での宝であり、自分の人生に立ち向かう勇気の源泉でもある。責任の所在は別にして、支援する側と支援される側という関係性は、相互に立場を変えながら切り結んでいくのだと思う。福祉の仕事の本質的な価値というものはないだろうか。(以下次号)



~わたしのおすすめの本~

こぶしづかん

取材:高野 満

こぶしづかん
こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を毎回紹介するよ。



買って、いつもたいして読まないんだけど、なんとなく手にしてしまう本です。いわば、ステータス。この本(と、いうより雑誌?)をレジにもっていくことも、携帯していることも、このコラムにのせることも、ステータス。



大人の生き方
大人の死に方
●梅原純子/著 ●毎日新聞社刊/1,470円

最初のきっかけは・・・
友人が新聞の切抜きを集め、マーカー片手にいっしょうけんめい読んでいました。それは梅原純子さんの人生相談コーナーでした。彼女、いわゆる「梅原先生の言葉が、わたしの心にぴったり入ってくるの」以来、彼女の言葉がなんとなく気になり、梅原純子先生の本を手にとるようになりました。

居住生活支援部主任! 仁平達也 おみぞれしました~

掲載されていることは半径3メートル以内の現実ですが、異国の生活をみているような非現実性があります。本にのっていることを実行することは、俗な自分にはとてもむずかしいですが、熟読すれば、理想的なニッポンの主婦(夫?)になれること請け合いです。



暮らしの手帖
●月刊誌 ●隔月(奇数月) 25日発行 ●暮らしの手帖社/900円

人生の締め切りを意識する年代になり、自分にとって何が大切かを気づかせてくれる一冊です

—怒り、悲しみ、つらい思いをなかつたことにして心にしまひこむのではなく、自分の感情ときちんと向き合い、表現する。それが心を掃除することになる・・・
—仕事はそのとき自分のできる最大限の努力をする。実行したら、あとは手放す。「他人にどう評価されるか、どう思われるか」を手放すことである・・・



仁平博美
生産活動部主任。「おらがそば茶屋」を切り盛りするスーパーウーマン。



今号から編集委員として名乗りを上げた2名の意気込み聞いてください

新編集委員紹介

高野 満
このたび、はじめてこぶしだより編集委員になりました。世界的に広がる自然災害、不況、政治不信、暴動、魑魅魍魎が大手をふって跋扈する昨今、福祉という現場で、たくましく活動している仲間や職員の姿を、イキイキと、それこそ飛び出す絵本のようにお伝えできたらいいな、と思います。たまに、お邪魔ムシとなつて、まわりつくこともあるかもしれませんが、どうぞ大目にてやってくださいませ。ペコ(お辞儀です)。

相談支援専門員5年目の星宮です。相談員という仕事柄、地域に出かけていくことが多いので、地域目線の情報をより多く発信していけるようがんばります。よろしくお願ひいたします。

星宮 有子
気合入れて
グッとくるこぶしだよりを作ります!!

海援隊コンサート大成功

ご協力ありがとうございました
セルブ・みらい 青木

去る、五月十三日(日曜日)、芳賀町民会館において、社会福祉法人こぶしの会 けやき作業所二十周年 セルブ・みらい十周年記念コンサート「海援隊トーク&ライブ 2012」を開催いたしました。

当日は、日本晴れ。会場を埋め尽くす千名近い観客の方々に大いに楽しんでいただきました。改めてご支援くださった皆様から感謝申し上げます。

この会を主催、準備して下さったのは、セルブ・みらいとけやき作業所の後援会と家族会です。岸勇次実行委員長(セルブ・みらい後援会長)、豊田功副実行委員長(けやき作業所等家族会会長)、佐藤操事務局長(セルブ・みらい後援会事務局長)、そして多くの実行委員の皆さんの1年以上にわたる取り組みは、ほんとうに楽しくも大変なものでした。そして呼びかけに応じてご後援、ご協賛くださいました真岡市、芳賀町、市貝町の行政・関係機関団体、企業の皆様ほんとうにありがとうございました。

私たち職員も、今回の取組みをとおして、作業所が地域の方々に深く支えられていること、後援会、家族会との一体感を強く実感いたしました。

この連帯感を大切にして、今後こぶしの会が、さらに地域福祉の拠点となるべく努力する決意をした次第です。